

* 編集後記 *

本号では「温故知新」をキーワードに、安福先生に「次世代につなぐジオシンセティックス技術の伝承を急がなければ」という題で、当学会が今後進むべき道について、具体論を交えて述べていただきました。大変示唆に富む内容であり、感謝申し上げます。

技術報文には「実物大実験によるポリエチレン管の液状化時挙動」、「ジオセル擁壁工法」の2編を掲載しました。用途開発の具体的な事例であり、広く参考になればと思います。今後も皆様方の積極的な投稿を頂戴出来れば幸いと存じます。

世界的な経済危機の影響もあり、他業界と同様、建設業界を取り巻く状況はますます厳しさを増している感があります。今後の見通しが不透明な中で、新規技術開発については、今まで以上に厳しい目にさらされる事が予想されます。その中で、ひとつの打開策として、これまで歩んできた道を今一度検証することで現在にマッチした技術を掘り起こす、という事は有益な手段であると思います。目の前に宝物のような技術が眠っているかもしれませんし、技術の伝承をするよい機会にもなるのではないのでしょうか。

末筆になりましたが、ご多忙のなかで原稿の執筆を快諾していただきました方々と、編集にご協力いただきました方々に心よりお礼申し上げます。

本号担当：谷口秀和、平川大貴、原田尚幸、木幡行宏

I G S 日本支部編集委員会(名簿)

委 員 長	木幡 行宏	室蘭工業大学工学部建設システム工学科
幹 事	山崎 真司	三井化学産資(株)埼玉事業所 環境資材開発部
幹 事	梶尾 孝之	太陽工業(株)土木エンジニアリングカンパニー
委 員	内村 太郎	東京大学大学院工学系研究科
委 員	荻迫 栄治	清水建設株技術研究所
委 員	小浪 岳治	岡三リビック(株)技術部
委 員	高橋 真一	(株)大林組技術研究所
委 員	谷口 秀和	(株)クラレ 東京繊維資材部
委 員	原田 尚幸	(株)錢高組技術本部技術研究所
委 員	平川 大貴	防衛大学校システム工学群建設環境工学科
委 員	土橋 和敬	前田工織(株)技術部
委 員	坂本 浩之	東洋紡スパンボンド事業部

I G S 日本支部会員現在数 (2009年1月末現在)

個人会員 240名 学生会員 23名 特別会員 20社 合計 283名

平成21年3月30日

ジオシンセティックス技術情報 (国際ジオシンセティックス学会日本支部・会誌) Vol.25, No.1

発行：国際ジオシンセティックス学会日本支部

〒112-0011 東京都文京区千石4丁目38番2号 ((社) 地盤工学会内)

事務連絡：〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255

埼玉大学地圏科学研究センター 桑野研究室内

TEL 048-858-9239 FAX 048-858-9239 E-mail iju@jcigs.org